

健康応援トピックス

11月10日(火)～16日(月)はアルコール関連問題啓発週間です。飲酒は健康だけでなく、様々な影響をおよぼします。一人ひとりがアルコールのリスクを理解し、自分に合った飲酒量を決め、健康に配慮した飲酒を心がけましょう。

○飲酒チェックツールを活用しましょう。 SNAPPY PANDA(スナッピーパンダ)

自分が飲んだお酒の種類を選ぶと、総飲酒量(純アルコール量)とお酒の分解にかかる時間が計測できます。自分の健康を管理するための方法として活用してみましょう。



○お酒との付き合い方を見直しましょう。

- ・自らの飲酒状況を把握する
- ・あらかじめ量を決めて飲酒する
- ・飲酒前、飲酒中に食事をする
- ・飲酒の合間に水を飲む
- ・1週間のうち、飲まない日を設ける

○適正な飲酒量を心がけましょう。

適正飲酒量：1日の純アルコール **20g未満**

純アルコール量 20gの目安



からだへの影響



アルコールに関する相談先

愛知県精神保健福祉センター

○アルコール電話相談【電話】

☎951・5015

受付時間：午前9時～正午、午後1時～4時30分(平日)

津島保健所

○アルコール専門相談【面接(要予約)】

☎0567・26・4137

受付時間：午前9時～正午、午後1時～4時30分(平日)

問 甚目寺保健センター ☎443・0005 七宝保健センター ☎441・5665 美和保健センター ☎443・3838

あま市民病院だより CT検査とMRI検査の違いをご存じですか？

CT検査とMRI検査は、どちらも体の内部を詳しく調べるための画像検査です。しかし、それぞれ仕組みや得意とする分野が異なります。CT検査は放射線を利用して撮影を行い、短時間で広い範囲を調べることができます。肺炎や肺がんなどの胸部疾患、肝臓や脾臓などの腹部疾患、骨折、脳出血の診断など幅広く全身に活用され、救急医療の現場でも欠かせない検査です。また、体への負担が少なく、迅速な診断につながる大きな特長です。

一方、MRI検査は強い磁石と電波を利用して画像を作るため、放射線は使用しません。脳梗塞の早期発見や脊椎、関節、筋肉などの状態の評価に優れており、体の軟らかい組織を詳しく観察することができます。ただし、撮影時間が長く、大きな音がするほか、体内に金属がある方は検査を受けられない場合があります。

医師は症状や検査の目的に応じて、CTとMRIを適切に使い分けています。あま市民病院放射線室では、患者さんに安心して検査を受けていただけるよう、丁寧な説明と安全な検査に努めています。

あま市民病院 診療放射線室 おおし だいすけ 大橋 大輔



公益社団法人

地域医療振興協会あま市民病院

Japan Association for Development of Community Medicine 〒490-1111 あま市甚目寺駐田1番地

～市民と連携機関に信頼され、健康と安心を提供する病院～

掲載に関するお問い合わせ：8:30～17:00(土日祝日を除く)

☎ 052-444-0050 ☎ 052-444-0064

随時情報更新しています

ぜひお手元のスマートフォンのカメラ機能で読み込んでご覧ください

あま市民病院
公式ホームページ

あま市民病院
公式Instagram